

第39号 (2016-7月発行)

根郷 寿だより



発行 佐倉市立根郷公民館

〒285-0815 佐倉市城 343-5

☎ 043-486-3147

編集 根郷寿大学

根郷寿だより編集委員会

「寿大学」の潮流と展望

会長 樹村 光雄

会長3年目という節目の年を迎え過去2年間「寿大学」の変化と進化が顕在化してきたような気がするのは私一人だけでしょうか？

以下特筆すべきは

○「校歌」の斉唱

○生徒の実体験のレクチャー(過

去に類似なし)

○市民講座の公開等

具体的、建設的、立体的に運営し実を挙げている実体が正に常態化且つ進化を遂げている事に対し心からの称賛を惜しみません。又、各班の纏まりも良く人間関係の良好な雰囲気も醸成され以前の「寿大学」のトレンドとは好循環で推移しているのではないのでしょうか。

激変する情勢、時代の変遷、時代の潮流に弾力的に対応する事が必要不可欠です。微力ではありますが、本年も心に火をつけて失敗を恐れずに革新する心を堅持し、常に過去の延長線上には「寿大学」の未来はな

いという信念で愚直に取組んでいきたいと考えております。その為には皆様との協力、協働、協調、共助が不可欠です。全員一丸となってより良い方向へ邁進しようではありませんか。

「一人の夢は夢にすぎませんが、万人の夢は現実のものとなります。」

「箸墓(はしはか)古墳」について

五班 座間 功

第一展示室に入って左の方向に「前方後円墳の時代」のコーナーがあります、このコーナーの最初の展示物として箸墓古墳があります、この古墳は奈良県桜井市にある長さ二百八十メートル、高さ二十七メートルの巨大な墓で、三世紀に作られた前方後円墳の中では、もつとも大きくて古いと考えられています。

この古墳の模型は百分の一の大きさで向こう側半分は作られた当時の様子です、小山のような古墳の表面には人の頭くらいの石が敷き詰められています、そして頂上に見える赤

くて小さいものは並べられた壺（つぼ）と埴輪（はにわ）です、私も数年前に現地で一周したことがありますが、小山のような巨大な墳丘と神秘さに圧倒された記憶があります。

周辺は九州から関東まで各地の人が臨時で住んだ跡（あと）がみられ、この古墳は各地の有力者が協力して作った、邪馬台国（やまたいこく）の女王・卑弥呼（ひみこ）の墓ではないかと言われています、また一方では近くの神体山として有名な三輪山の神につかえる巫女であり妻であった “やまとととひももそひめ” の墓とも伝えられています、この古墳が出現して以降、前方後円墳は各地の有力者の墓の形となっていたそうです。

そして、この古墳の形については種々の説があつて、一つとして鍵穴のような形に見えることから鍵穴説があります、それは



死者を運ぶ牛車をかたちどっており、円い部分は牛車の屋形にフタをした形、三角形の部分は車を引くナガエの部分とみられるので、前方が方で後ろが円と推定されています。二つ目として、この古墳を逆さまに見ると壺に見えるところから「壺型」説があります、ここで言う壺とは不老長寿の仙人が住む蓬莱山（ほうらいさん）の形を模したものであるという。

古代中国では東の海に浮かぶ蓬莱山は壺の形をしていると想像されてきました、そこから古墳時代の権力者は墓の形を壺型にすることによって不老長寿を願ったのではないかと言われています。

「海の宝石」と呼ばれる

ウミウシについて

三班 直江 國雄

近年、水中写真愛好者の間では、やわらかい体でカラフルな色と模様、牛のよう角（触角）を振り立てて、岩や海藻をゆっくり這い回る「海牛」

が大変人気のある生き物として撮影されています。それらはテレビ、インターネット、新聞、雑誌等で紹介されていますのでご存知の方も多いかと思われます。

実は昭和天皇が相模湾で御採集され、御研究されたウミウシについて昭和24年に「相模湾産後鰓類図譜」を英国皇室の援助を受けて、ご発刊されていたと聞いてびっくりされることでしょうか。

私は富山県立高岡高等学校へ入学（昭和30年）した時生物クラブに入部しました。そして一般研究課題と並行して富山湾を中心としてウミウシ調査・研究も年間行事として行いました。今なおOBとして日本海での採集調査に年数回は参加しています。

「ウミウシ」はどんな生き物・・・?

ウミウシは巻貝（サザエ、アワビなど）の仲間でありながら、体を守るための貝殻を退化（少ないが貝殻をもっているものもいる）させてしまった不思議な生きものです。例えばアオウミウシは体長3〜4 cm位の

青色の軟らかい長い小判形の体に黄色い模様を散らばせ、触角や鰓は赤色で彩られています。

「身を護る方法としては・・・」

殻を作ったり動き回ったりするのに必要なエネルギーを節約できますが軟らかい体を護らなければなりません。それには、味の悪い物質や毒性のある物質を体の中にとり込んで敵に食べられないような体にしたたり、危険が生じた時に、この物質を体外に放出して敵を追い払ったりして、他の動物に食べられることを防いでいます。特にミノウミウシの仲間（蓑は昔、農家の方が雨期に蓑笠等で作業されていた事を思い出して下さい。大変よく似ています）は大変美しくとても目立つ色をしたものが多くいます。この目立つ色は、自分が毒を持っていることを外敵に知らせる警戒色とも考えられています。（蓑：背側突起―先端に毒液をため込む）

「どこに住んでいる・・・」

熱帯から寒帯にかけての海・・・引き潮で干し上がる潮間帯から深海に

いたるさまさまなところ に又それ
その環境を好む種類が住んでいま
すが、暖流の流れる暖かい海の石
段・海藻が生える岩場には種類や数
も比較的多く、寒流の海では種類や
数も少ないようです。千葉県では房
総半島の外洋に面した館山から勝浦
にかけて、暖かい黒潮の影響を受け
る春から夏の時期、大潮の日の潮が
ひいた時間に歩いていける磯では、
簡単に見ること観察が出来ます。

「ウミウシの一生・・・」

雌雄同体で一個体の中に雄と雌の両
性の機能が備わっています。

しかし交接して他の個体の精子を
受けないと受精卵を産むことはでき
ません。ふ化した幼体と成長する際
の餌は藻食のものもありますが、多く
はカイメン、コケムシ、ホヤ刺胞動
物など、海底に付着している肉食の
ものを食べ成熟します。この餌の中
には毒も一緒に食べてそれを体内に
ため込んで(ミノウミウシのように)
身を護るのに使います。

寿命は長くても3年以下、多くのも

のが1年、1年未満のものも多く中
にはわずか数週間で一生を終えるも
のがあります。大きさは1mm〜50cm
位で小さいものは2〜3mmしかな
く海牛では小さな点にしか見えませ
ん。スポイド採集し、あとで顕微鏡
で観察することも多くあります。餌
は決まった餌しか食べない種類が多
く長期間の飼育が難しく研究もな
なか大変です。

「ウミウシ採集や記録等につい
て・・・」

ウミウシは、今までに日本で採集さ
れた数は1000種類以上、そのう
ち私達は日本海側で210余種確認
しています。その中には新種として
命名されたものが35種あります。

・ウミウシは分類学上

※後鰓類こうさいるい中で、貝殻が縮小、体内に
埋没、消失などした種の総称。軟体
動物門腹足綱(巻貝の仲間)に属す
る。

・なぜ後鰓類というのか

※後鰓亜綱

鰓(水生動物の呼吸器)が心

臓より前にあるものを前鰓類と
いいウミウシは鰓が心臓よりも
体の後方にあるものを指す

・記念切手(アオウミウシ、コモン

ウミウシ)発行

1987年(昭和

62年)海洋生物

学100年記念

・第1回日本学生科

学賞

1957年(昭和

32年)高校の部

で高岡高等学校が中部日本海沿

岸産後鰓類ウミウシの研究で内

閣総理大臣賞(岸信介)を受賞

「郷土食・珍味品として・・・」

昭和天皇もご試食されたという記憶

が・・・元侍従長入江相政さんの「城

の中」に(中公文庫)書かれています。

地方において(鹿児島県・徳之島、
島根県・隠岐島)は、アメフラシを

乾燥させて酢の物又煮物として郷土

食の珍味として出され、私も試食し

ましたがおいしかったです。又魚(鮪、

鯛釣り)の餌として、秋田県・飛鳥
で早朝鮪の餌として針につける瞬間
を見ましたが、大変よくつれるよう
で、漁師の方も大変自慢げに話をし
てくれました。

一方薬用・下剤止めに使用された
という貝原益軒「大和本草」の記事
もあります。

ウミウシの別名(地方で呼び名が
ちがう所もあります)

和歌山県・オハグロ、岡山県・ナ
メクジ、福岡県・ウミシカ、鹿児島

県・ムラサキと呼ばれています。
「ウミウシが海の宝石といわれる所
以は・・・」

色は赤、青、黄、緑、白、黒など
いろいろな色のものが又模様も縞、

水玉、網目など実にさまざまととて
もきれい・・・私が初めて海に入っ

て、この神秘さにおどろき無我の気
持になり童心になる一瞬が何んとも

言えず、忘れられません。

良き仲間生まれ又多くの趣味を持

つ事が出来、一生の宝物です。老後

を一層楽しくしてくれ、健康維持にもつながります。

インターネットのホームページ「日本海のウミウシ」

<http://fiweb.or.jp/njanoIus/>

富山湾産後鰹類図譜・高岡高等学校・生物研究会編(昭和39年3月発行)を読んで頂き、少しでも海の神秘さウミウシについてご理解して頂ければ幸いです。

続・人生のマラソン(その二)

四班 斎藤 たかし

ここで今、根郷公民館二階ロビーの書籍棚に陳列されている自分史集を振り返る。十一人の仲間の内、現在既に他界された人は半数に及ぶ。



それはそうでしょう、平成十年三月発行だった。あれから十九年――。

昭和二十一年(終戦の翌年)私は父の実家があった秋田県由利郡平沢

町に一家五人で転居した。そこは後の仁賀保(にかほ)町と象潟(きさかた)・金浦(このうら)の三町が合併して平成十七年に「にかほ市」となり、昨年(平成二十七年)に十周年を迎えた。

ここで初めて記述するが東京電気化学工業(後のTDK)の発祥地はにかほ市であり、創業者の斎藤憲三は父(昭和五十年他界)の従兄である。

昭和二十一年には昭和天皇が人間宣言をして全国を巡幸された。そういえば天皇のお召し列車が羽越本線を通じた日私達小学生が羽後平沢(現・仁賀保駅)のプラットホームに整列して、一斉に日の丸の小旗を振った記憶が蘇ってきた。

顧みれば戦時中の天皇は雲の上の存在であって、国民学校(昭和二十一年から名称が小学校に改称)の正門近くの奉安殿に天皇の御真影が祭られ、毎朝登校時には奉安殿に向かい「おはようございます」と一礼するのが習慣であった。

私の生まれは秋田市、その後東京荻窪の大半が日中戦争と太平洋戦争の真つ只中で疎開は秋田市、そして旧由利郡平沢町へと国民学校、小学校時代は実に三度も転校した。

(つづく)

日銀・金座の歴史

六班 原田 渉

昨年十一月友人と我が国唯一の「発券銀行」を見学に足を運んで来ました。

日本銀行は一八八二年(明治十五年一〇月一〇日)営業を開始。全役員四七〇〇人、本店二七〇〇人、海外二〇〇〇人、国内支店三十二支店、国内事務所十二事務所。

「金座の歴史」

◎所在地――金座は、江戸幕府発行の金貨を独占的に製造した機関(大判をのぞく)でかつては江戸の金座は日本銀行本店本館の位置にありました。

◎初期の金座で金貨製造――

初期の金座は老中もしくは留守居役

が直轄し、幕府の御金改役である後藤庄三郎光次が直轄する組織でした。この頃の金座製造方式は「手前吹」といわれ専門の製造所を設置せず御金改役の指示を受けて小判師が自宅で小判のもととなる原判金を作りました。それらは後藤家に集められ、検定で合格したものに後藤家が極印を打ちました。

◎江戸が金貨製造の中心へ――

従来は分散型の製造方式は管理上適当でないということから、元禄の改鑄以後、江戸に本局(日銀本館の所在地)京都、佐渡に出張所を置き江戸を中心に金貨製造を行い集中生産体制に改められました。又金座は勘定奉行の支配下に置かれ幕府の機関として再出発をした。

◎江戸時代の三貨制度――

江戸時代は金貨・銀貨、銭貨という三種類の性格の異なる貨幣が並行的に通用する独自の三貨制度がとられた、なぜ江戸時代にはこのような複雑な貨幣制度にしたのか?

産金地域の東国を基盤に天下を統一

した徳川家康は最初金貨を中心にした貨幣制度を導入しようと考え、一枚ずつ数えて使う計数貨幣を発行し、また小額貨幣については中世から渡来銭など銅貨が庶民の日常生活で使われ、全国的に定着した。

一方銀の産地が多い関西では重さを計る銀貨が使用されていた。当時強い経済力を持つ大阪商人たちが中国などの東洋諸国との貿易に銀塊を使ってきた背景もあり、家康の力をもつてしても関西での「銀遣い」を変えさせる事は出来なかった。

このようにして関東の金遣いといわれる習慣が成立し、又、銅貨は渡来銭に替わり幕府が発行した寛永通宝に統一され庶民に使われた。

◎お札の発行・流通・管理

※お札の種類——現在一万円札券、五千円札券、二千円札券、千円札券の四種類を発行。

※お札の発行——

国立印刷局で製造され日本銀行が引き取り、本店や支店の金庫で保管されている。その後お札は日銀の窓口か

ら金融機関を通じて世の中に送り出される。ちなみに硬貨は日銀でなく国（財務省）が発行。

※お札の流通——

世の中に送りだされたお札は個人・企業などさまざまに目的で利用された後、再び金融機関を経由して日銀に戻る。このように日銀や金融機関はお札が全国各地をくまなく渡るようにする。流通地点としての役割を果たす。又日銀は災害などの緊急時にもお札が円滑に供給出来るようにしている。



※お札の管理——

日本銀行に戻ってきたお札に対し真偽鑑定や損傷や度合いの検査を行う、監査の結果再流通に適さない札は、破棄される一方流通に適する札は新しいお札とともに再び日銀の窓口から世の中に送り出す。ちなみにお札の平均寿命は使用頻度の高い五千円券、千円券で一〜二年程度、一万円

券で四年〜五年程度。

◎両替屋の発達——

金銀銅の三種の貨幣が流通していたと云う事は例えば日本という一つの国の中で円・ドル・ユーロといった独立した貨幣が同時に使われたようなもの。離れた地域間の商取引や旅行の際にはその時々々の相場で貨幣を交換する事が不可欠となり、それを仲立ちする存在として両替屋が発達しつゝ両替屋が現在の銀行のような役割を果たしていたわけです。

消えた「佐倉の宗吾霊堂」

四班 木偶坊

みなさんご存知ですか？あの義民伝で名高い成田公津にあります「宗吾霊堂」が佐倉の弥勒にあったことを！

その発端を「新佐倉風土記」にて見ると、①明治四十二年に宗吾霊堂の門前で火災がありその飛火で全焼した事、②翌年住職が佐倉の有力者に年始に見えた時の話で「御堂が焼けてしまったが再建はなかなかむず

かしい、困難だから佐倉でなんとかならないだろうか」との話があり、

③そこで町では寄合を開き協議を重ねた結果、もう一度住職の気持ちを確認しようとして訪ねると「いやどうも講中や檀徒の意向を聞いて見ると大反対を唱える声が多かった」という事であり移転問題は宙に浮いてしまふ妙案もないまゝ時が過ぎて行つた。④転機がおとずれる、幸田薬局の店主が東京の堀田家より名匠に彫らせた木像の「宗吾坐像」を手に入れた事であった。幸田さんはさびれていく佐倉の町をなんとか活性化できないかの一心で町内の有志を募りこの霊像を離れでも礼拝出来るような神社を建てようと動き出します。⑤また大正十二年、木内輝胤氏が東勝寺（宗吾霊堂）を離れ佐倉の大聖院の住職に赴任されたことも大きく寄与することになります。「お前は惣吾郎の身内の者であるから祖先の霊を供養するために分霊を許す」との一言をもらい御堂建設に拍車がかかります。⑥資金繰りも悪戦苦闘のうえ、

どうやら目鼻がつき浅間屋根（現・厚生園（浅間宮の間）の地主さん達の了解を得、建設されることとなる。

⑦そして昭和三年七月に待ちにまつた「佐倉山 宗吾霊堂」の完成である。

当日は役場（現・図書館）より出た稚児四十名、僧侶、町内世話人達が続き宗吾霊堂まで延々と続いたという。それも三日間も続き大変な賑わいを見せていたといわれる。本堂建設後、弥勒より本堂正面への参道、石段、客殿を造り年末には仲見世様式の売店が片側四軒づつ計八軒も住民の協力のもと建てられた。時は経ち⑧あまりにも盛大で繁盛を続ける佐倉霊場を本家の宗吾霊堂側も面白くなく権利の侵害だとクレームがつくようになり四年間も民事で争うことになる。それでも本家争うが続いたが一応早川雪舟氏を始めとする多くの人達の仲裁で解決の向う。

⑨そうこうしている間に霊堂もピークも過ぎ昭和三十年に佐原のお寺に解体移築されることになる。本尊の「宗吾坐像」は山ノ崎の東福寺に安

置される事になります。そして最後まで残っていた客

殿も昭和五十



一年六月に取り払われて霊堂に関する建物が一切なくなってしまう。⑩果たして問題の東福寺は今何処に！京成佐倉駅北口に行く丸山橋踏切を渡り突き当りに居酒屋がある。その左側の路地を進むと右側に「曹洞宗 佐倉山 宗吾観音 東福寺」の石柱が建っています。左の階段を登ると当時入口で参拝客を出迎えていただろう「佐倉山 宗吾霊堂」の石柱と本堂正面に掲げられていた扁額「宗吾堂」が往時を忍ばしめるが……―当時を知る者としてはあまりにも情けない光景である。

小学二年生の遠足で行った思い出の宗吾霊堂今いずこ……。回廊を走り周ったのはほんとうに昨日のよ



うにおもうのだが……。この衝撃の落差はなんだろうか？知らなかった方が良かったのか……。？ まさに菅原洋一の「あなたの過去など知りたくないの……」？

サクランソウのこと

四班 大越 清

最初に「サクランソウ」と聞きますと、多くの方が、花が咲いてその種が落ち、発芽し毎年花が咲き、花が二センチほどで、一月頃から咲く、そのような花と思われているかもしれませんが、それは日本サクランソウとは違い、プリムラマラコイデスという一年草の西洋サクランソウの事で、私も当初はそうに思っていました。



本来は、単に「サクランソウ」といいますと日本サクランソウを指し、その特徴は、日本など東アジアで自

生する「宿根の多年草」で、江戸時

代から連綿と品種改良や交配が行われながら、栽培が続き、現在に至っています。今は、品種が五百以上あるとも言われている古典園芸植物だそうです。

私とその花との出会いのきっかけは、まず、歴博の「くらしの植物園」で目にふれ、その種類の多さ、花の多彩な色あい、咲きかた、大きさの違いが驚きであり、従来のイメージを覆すものでした、そして、再び、四街道イトーヨーカドーの展示会で目にふれ、更にひかれました。その場で説明の方から、西洋サクランソウも含め「サクランソウ」は四街道市の花で、市章にもなっており、展示は、市役所や他の施設でも行われ、その普及を進める「会」があり、入会を勧められました、市外在住で該当外と思いましたが、もともと園芸が好きで、断る理由もないので入会申し込みをし、現在に至っています。自家で栽培をはじめて、何事も同じですが、その奥の深さと難しさ、楽しさを感じています。また、その

栽培カレンダーの多くが寒さ厳しい冬に集中し、老齢のわが身には応えませんが、しかしながら、四月から始まる開花の喜びは、またひとしおです。皆様の中にも育てている方がいらっしやるとおもいます。

最後に、ご質問がありましたら、薄い知識ですがお答えできれば、と思っています。

高齢者虐待と地域の支援

元寿大学生 廣吉 正毅

かつてはまれにニュースになった高齢者虐待が近ごろは大きな事件となっている。

先だって通りすがりの住宅地で「オーイ頼む、オーイ」と誰かを呼ぶ声が聞こえてきた。はて？と声の方へ目をやるとそこは連れ合いを早くになくしたお爺さんと一人もの中年息子と二人暮らしの家であった。

お爺さんは脳卒中で不自由な体になり息子に介護されている。このごろもの忘れが出てきたという。ときどきホームヘルパーが通つてくると

か。縁側いる息子はどうか「知らんふり」を決めこんでいるようだ。こういうのが一般には「介護の無視、世話の放棄」であり心理的な虐待というらしい。

このところ男性介護者の割合が増えていそう。つまり息子や夫がおもな介護者になる可能性が十分に考えられる。だが、残念ながら女性に比べて介護を担う男性が虐待に至る傾向が高いようだ。息子なり夫が不慣れた家事と介護に疲れ隣近所のつきあひもスムーズでないため、ストレスがたまってなかには虐待から孤立することがあるようだ。

そこで、この孤立を防ぎ虐待をなくすには例えば『近隣住民、自治会、介護保険サービス事業者などの関係者』が在宅介護家庭への声かけ見守りの地域連絡網をつくる支援が望まれる。これらは誰でも考えることだがこれを実践してこそその意義がある。周りのかたの力添えが不可欠だと思われる。

年をおうごとに高齢化が進み在宅介護が増えていくなか、財政面を

考えると行政からの確固たる支援は期待できそうも無いと思う。いうまでもなく在宅介護は私たち個々にかかわる問題であるからだ。ここで介護者と地域住民が絆を強くし一体となつて虐待をなくすことが良い方法ではなかるうか。

介護者は虐待に対する認識を念頭に愛情を傾けた高齢者介護に向き合う配慮が必要だ。

「程々の生活」を目指そう

五班 吉野 強三郎

「智に働けば角が立つ。——兎角に人の世は住みにくい」とは、漱石の「草枕」の有名な冒頭の言葉です、そんな世の中、みんなが「しかめっ面」して生きているのだからか？そんな事はない、程々、楽しく生きているのではないだろうか？しかし、楽しい事ばかりではない、その時は夫々、その人なりの解消法を持つている事が必要だと思ふ、酒、カラオケ、社交ダンスなんでも良い。

ご存知の様に、禅僧のお坊さんを「雲水」と呼びます「行雲流水の生活」空を行く雲と流れる水、物事に執着せず、淡々として自然の成り行きに任せて行動する事です。私達はそんな悟りきつた生活は出来ない、お釈迦様は世の中は「諸行無常、一切皆苦」と言われるが「諸行無常」だからマンネリにならなくて良い「一切皆苦」だから楽しみが倍増する。考えようだ、見方により、ポトルの半分の酒は、まだ半分もある、砂漠に住む靴を履いていない人へのセールズ活動、需要は無限である、物事は見方である、都合の良いように考えよう。しかし、現在は「タイムレコーダー、ガチャンと押せば、どうにか恰好はつくものさ——」の歌通りには行かない、スマホで、GPSで行動管理される、嫌な「世の中」になったもんだ、しかし考えようだ「楽しい事を見つけましょう」

紙上・佐倉学⑬「いもの会」

「刺身こんにやく」

■材料

- ・こんにやくいも 1kg
- ・炭酸ソーダ 20g
- ・水 2.5ℓ
- ・湯 1カップ

■作り方

(生いもを茹でてから作る方法)

- ①いもを金だわしなどで洗って、皮を剥き、芽を除く。(生いもを触れると手がかゆくなるので、ゴム手袋を使う)
- ②いもを1.5cm位の細目に切る。いもがかぶる位の水を入れ、茹でる。
- ③分量の水で茹でたいもを数回に分け、ドロドロになるまでミキサーにかける。
- ④ミキサーにかけたら、中身をボールにあけ、軽く混ぜ合わせて、平らにのばし、1時間位ねかせろ。
- ⑤ねかせたら、40回位万遍なく、手でかき混ぜて、お湯でといた炭酸ソーダ(凝固剤)を加え、全体がよく混ざり合うようにする。(すぐ固まってしまうので、素早く)
- ⑥すぐに型にいれ、こんにやくの中

にある空気を出し、水をつけた手で上部をペタペタたく。

- ⑦しばらく置き、(こんにやくを型からはずすため)固まったら容器の上から水を入れ、好みの大きさに包丁で切る。
- ⑧大きめの鍋にお湯をたっぷり沸かし、こんにやくをいれて、30分ゆで、(色が変わる)水にさらし、あく抜きをする。

■食べ方

刺身のように生姜醤油で食べます。

低カロリーで成人病予防に最適です。

■保存

ゆで汁を洗い落とさずにビニール袋などで密封して、冷蔵庫へ。

「ゆず味噌」

- ・みそ 400g
- ・砂糖 340g
- ・酒 50ml
- ・みりん 50ml

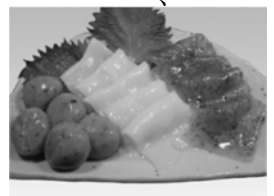
・すりおろしたユズの皮1個×2個分

調味料を小鍋に入れ、煮たてる。

とろみが出てきたら、火を止め、ユズを加える。

ズを加える。

こんにやくは、食べやすい大きさに切り、割り箸など刺して、たっぷり湯で茹でてこぼす。



- ③ ふきんなどでこんにやくの水気を取り、①のたれをたっぷりかけたら出来上がり。

編集後記

編集委員

あつという間に新年度。根郷寿だよりも第39号発行となりました。毎号楽しい思い出、地域の連帯充実感、人生への粋、夢中で拝読させていただきました。投稿いただきました筆者の皆様有難うございました。校歌、それ行こう寿大学生、オー喜怒哀楽等愉快なテーマ、投稿おまちしています。根郷寿だより地域への関心と和に!

敬称略

公民館職員・左記今年度も宜しく

館長 木村 武雄

学芸員 松田 富美子

主査補 菅原 久志

主任主事 尾形 弥生

戸田 さよ子

・根郷寿大学

会 長 樹村 光雄

副会長 福久 伍一

副会長 國見 美子

・根郷寿だより編集委員(順不同)

齋藤 雄 山城 安男

原田 涉 吉野 強三郎

阿久津 晃作

編集委員募集

編集委員二名を募集しております(女性大歓迎)

「根郷寿だより」の原稿大募集!!

皆様のふるつての投稿をお待ちしております。出会いと別れ、思い出、

私のふるさと、健康法楽しいシルバ

ー川柳、句、等ご随意に投稿下さい。

送付先は佐倉市立根郷公民館

根郷寿だより編集委員会へ

〒285-0815 佐倉市城 343-5

☎043-486-3147

E-mail:

negou-public@city.sakura.lg.jp

negou-public@city.sakura.lg.jp